

| 教育目標 | | たくましく心豊かな子どもの育成 | | | | | |
|---------------|-------------------|--|--|---|---|--|---|
| 重点目標 | | ・「主体性」をキーワードに保育実践を行い、「意欲」「豊かな表現」「思いやり」「共同」を育む教育を推進する | | | | | |
| 項目 | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 |
| 確かな学力の向上 | 主体性の尊重 | <ul style="list-style-type: none"> ○自ら主体的に行動し、遊び込む子どもを育成する保育を実践する。 ・子どもの遊び込む姿から育ちを捉え、記録をもとに職員間でカンファレンスを行い、幼児理解を深める。 ・園庭の環境を職員間で話し合い、子どもが主体的に活動できるように工夫するとともに実際の姿から環境を再構成する。 ・他園の保育や研修会などに参加し、子どもの主体性を育む保育について学ぶ。 ・隣接する小学校の校内研究会等に参加し、互いの教育について学び合い、教師間の連携を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの中で、「子どもは、やりたいことを見つけ、意欲的に遊ぼうとしている」などの回答の結果が90%以上になる。 ・遊び込む子どもの姿の記録をもとに月2回以上カンファレンスをする。 ・共同研究園で遊び込む子どもを育むための研究を進め、個々の資質の向上を図るとともに次年度への方向性を見出す。 ・池尻小学校等の校内研究会に参加し、小学校教育についての理解を深める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果、100%の肯定的な回答を得た。また、子どもが遊びを通して学んでいるという肯定的な評価を得ることができた。 ・記録をもとにカンファレンスを実施し、子どもを中心にいた保育を実践することができた。 ・共同園の研究会への参加や合同カンファレンスを実施することで、子どもの姿を多面的に見る大切さを実感することができた。また、共同研究としての次年度課題を見出すことができた。 ・隣接する池尻小学校の研究会に参加し、小学校教育の取組を知り、幼児教育との接続等を考えるきっかけができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して学ぶという幼児教育の基本スタイルを各職員が意識しながら、保育を実践する。 ・カンファレンスを実施することで、自分とは違う考えに出あい、自らを振り返りながら教師自身が学ぶ姿勢を維持する。 ・架け橋プログラムの実施に向けて、教師間の学びの場を設ける等できることから取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ環境が整えられていて、自分たちで環境を変化させることができるので、主体的に遊び込む事ができるのであろう。これからも、環境を通していろいろな事を学び、元気いっぱい過ごすことができる環境を整えていくことを期待する。 ・学校側からも園の研究会に参加し、幼小連携を図ってきたい。 |
| | インクルーシブ教育の推進と充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた適切な援助を計画、実施し、子ども同士が互いに認め合い共に育ち合う保育を実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援対象児に対し、個別指導計画を作成する。 ・必要に応じて巡回相談や専門機関など、外部機関との連携を図る。 ・特別支援対象児だけでなく、すべての子どもが安心して生活することができるような保育を実践する。 ・職員間の情報交換、情報共有を大切にし、一貫した支援方法を行う。 ・子ども理解について保護者啓発を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの中で、「一人一人の子どもに愛情をもってかかわり、個々の発達に応じた教育を行い、共に育ち合うようにしている」の回答の結果が90%以上になる。 ・個別指導計画を前後期で作成し、保護者に開示、面談を行い、家庭と連携して支援する。 ・特別支援コーディネーターを中心に、外部と連携を図り、職員間で共有し実践する。 ・一人一人の子どもに対する支援や情報を職員間で検討し、実践する。 ・学期に1回、にじいろだよりを発行し、特別支援教育について発信する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果、98パーセントの肯定的な回答を得た。 ・個別指導計画を基に、職員間並びに保護者との共有を行い、子どもにとってよりよい支援につながるよう心掛けた。 ・巡回相談やコンサルテーション、また通所施設等と連携を図り、子どもにとってよりよい支援方法を学ぶことができた。 ・全家庭にじいろだよりを発行し、子どもの関わりの中でヒントになるような内容を発信することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達に応じて、向き合う援助や寄り添う援助、見守る援助などを実践する。また、一人一人が最適な環境となるよう支え、協同的な学びを推進する。 ・家庭支援を続け、園全体でよりよい支援体制を確立する。 |
| 豊かな心と健やかな体の育成 | 豊かな心を育む道德教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や他を思いやる気持ちをもつことを実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさ、友達のよさに気付き、互いに思いやりをもって接することができるような保育を実践する。 ・子どもの内面を読み取り、安心して自己発揮できるような保育を実践する。 ・動植物の飼育、栽培を通して命の大切さに気付き、思いやりの気持ちを育む。 ・身近なものに対しても、大切に扱おうとする気持ちを育む。 ・教師自身の道徳性を高め、研修や啓発誌を通し人権意識を高めていく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果、97%の肯定的な回答を得た。 ・子どもを育ちを通して保護者啓発を行い、目に見えない“心”の教育を保育の中で実践していく。 ・人権研修会に積極的に参加し、教師自身の人権感覚を磨く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が安心して園生活を送ることができるように、個々の思いに寄り添いながら、集団教育を実践する。 ・教師自身の人権感覚を高めるために、研修会に参加したり、刊行誌などを讀んだりして学び続ける姿勢を大切にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切する中で、周りの人への関心を向けられるようなフォローも必要だと感じる。 ・特にコロナ禍の中、人と人、人と物等のふれ合いや体験がとても大切だと感じた。 ・生き物や花などを育て命の大切さに気づける環境になっていることがよい。その中で、自ら関心が向けられていない子への関わりはどうなっているのか。 |
| | 健康教育の充実(健やかな体づくり) | <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を確立し、自らの健康について関心をもてるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な感染症や風邪について知り、自らの健康に関心をもつことができるような保育を実践する。 ・ほけんだよりやけんこうカレンダーなどを通して、保護者啓発を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果、89%の肯定的な回答を得た。例年評価が低く、工夫して行う必要性を感じていた。 ・子ども自身が意識して行っているかどうかを保護者が判断できるように、けんこうカレンダーを不定期に取り組んでいただく機会を設け、家庭での意識変革を啓発することができた。 ・子どもへのほけんの話を参観してもらう機会を設けられたことで、子どもが学んだことを家庭でも意識できるような取組ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実体験に基づいて学んでいくことを踏まえ、手洗いうがいなど基本的な生活習慣を基盤に、子ども自身が体の健康について知る機会を引き続き設ける。 ・保育の可視化を行い、引き続き保護者啓発に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共に、健康教育を啓発していることで、子ども自身が自らの健康に関心を向けやすい環境が作られていることがよい。 ・コロナへの対応が変化するであろう中、今後の新たな対応の啓発も大切になるであろう。 |
| 開かれた園づくり | 園情報の積極的な発信 | <ul style="list-style-type: none"> ○園の情報発信を工夫し、園教育の理解を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通して、園生活の様子を発信する。 ・クラスだよりや幼稚園だよりを通して、子どもの育ちや学びを具体的に伝える。 ・Google classroomを情報の発信源として使用し、保護者にとって身近なものになるようにする。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果、98%の肯定的な回答を得た。 ・Googleclassroomの使用頻度をあげることで、閲覧する意識が高まっている。しかし、通知がこない等機能的な課題を克服するために、玄関掲示で配信を行ったことを知らせることで利用が定着しつつある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の様子を伝えながら、その中の教育的意義を発信し、幼児教育の重要性を伝えられるような配信を続ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報などの注意すべき点はあるものの、保護者が関心をもって関わろうとするような発信を今後も継続していくとよい。 ・保護者アンケートの結果から、「参加や行事、通信などで園の様子がよく分かる」と評価されていることから、信頼関係が築かれていることがわかる。 |

○学校関係者評価総括
 主体性を大切に教育をしていることがよく伝わってきた。
 ○次年度に向けた重点的な改善点
 幼児の主体性を大切しながら、安全面の配慮を徹底し、環境の見直しを図る。 切れ目のない連続した教育を進めるため、保幼小中連携の促進を図る。 ペーパーレスの中、家庭との連携を深め、伝達内容を確認しながら信頼される園づくりに励む。